



いわせ和子議会質問

一部抜粋構成

あなたに代わって質問します。暮らしの疑問、地域の困りごとをお知らせください。

平成24年3月定例会

○防災教育の更なる充実を求め！

質問 町田市の取り組みは。
(答弁) 学校教育部長 都教育委員会が作成した「安全教育プログラム」、防災教育副読本「地震と安全」を活用。また、小中学校防災教育補助教材「3・11を忘れない」を小学5年、中学2年に配布。自分の命を守り、身近な人を助け、地域に貢献できる人材育成する防災教育を実施。来年度は、東日本大震災を想定した避難訓練や安全指導を教育課程の中で位置づける。

質問 「町田市防災教育の日」の制定を。
(答弁) 学校教育部長 町田市全体として取り組むべき課題。防災担当と協議し、方向性について研究する。

質問 防災教育を小中一貫で連携し9年間の連続性のあるプログラムを。
(答弁) 学校教育部長 小中一貫町田っ子カリキュラムの道徳授業においても自助共助、心の思いやり、親切な心を育成するなど小中連携を図っていく。

質問 学区安全マップを有効活用し防災教育に取り組む。
(答弁) 学校教育部長 先進的な事例を参考にし、考えていく。

提案 危機予知トレーニングや、問題解決型の災害図上訓練を学習に取り入れて。
○市民に開かれた審議会・委員会等の傍聴を

質問 審議会・委員会等を傍聴に来る子育て中の方々に託児サービスが出来る環境整備を。
(答弁) 子ども生活部長 子育て中の保護者の皆様がさまざまな場面で社会参加がし易い環境整備に取り組み。

質問 耳の不自由な方に磁気ループ用の受信機の貸出しや手話サービスの実施を。
(答弁) 総務部長 磁気ループは現在実施していない。手話サービスは、事前依頼があれば対応できる。

平成24年6月定例会

○パニック障がい者への支援の充実を

質問 パニック障がい者や家族に対しての取り組みは。
(答弁) 地域保健担当部長 精神保健相談を実施。パニック障がいの相談は、ひきこもり事業の中で対応し、専門医療機関を紹介する等、適切な医療が受けられるよう支援している。

質問 専門的な適切な医療とは。
(答弁) 地域保健担当部長 疾患へ理解の深い精神科専門の医師による適切な診断に基づいた薬物療法と心理療法がある。薬物療法は、抗うつ薬や抗不安薬等により発作を抑えることが基本。丁寧な服薬指導が必要。心理療法は、病気についての正しい知識や心の持ちようを学び、強い不安が生じた時、それを回避せず徐々に慣れていく等、行動の仕方を変えることにより効果が期待されている。

質問 パニック障がい者や、家族を支援するための講演会の開催を。
(答弁) 地域保健担当部長 講演会を含め、パニック障がいについての普及啓発は大変重要。また、「いきいき健康たより」を用いた普及啓発を実施する。

提案 一人でも多くの方にこの病気を理解してもらうためのアンケート調査、相談支援体制を。また、町田保健所のHPでは、親しみやすく、充実した情報提供を。

平成24年9月定例会

○真光寺川を守るために

質問 この1年間の取り組みは。
(答弁) 環境資源部長 水質汚濁防止法に基づき河川調査を実施。今後も継続監視する。また、河川管理者の東京都、市の下水道部と毎年4月に河川水質事故対策連絡会を開催。必要に応じて随時情報交換を行い、今後も引き続き河川管理者等との連携を図り、河川水質向上について啓発を行う。

質問 環境資源部長 一般的に、車を洗った時の水や側溝に溜まった土砂、粉じん等が流れ込み、公共下水道の未接続の家庭からの生活排水の流れ込み等、色々な要素が考えられる。特定することは非常に難しい。

質問 広裕公園調整池の汚れの原因は。
(答弁) 下水道部長 上流から流入する水質と水量の問題があると考えられる。水質は、主に市街化調整区域など公共下水道の、未整備地区からの生活排水等、流入する水にはさまざまな汚れが含まれている。また、調整池の面積が約9,000平方メートルと大きいにもかかわらず、真光寺川の方から流入する水量が少なく、調整池の中の水が非常に浅く、状況になっているからと考える。

質問 市街化調整区域の汚水処理の手法は。
(答弁) 下水道部長 2011年度から市街化調整区域の汚水処理基本計画策定業務委託で検討中。広裕公園調整池の流域エリアも、今後調整池の浚渫を進めながら、市街化調整区域の汚水処理を現在進めている市街化区域のように公共下水道で推進するの、合併処理浄化槽等その他の方法で進めるのかを決定していく予定。この5力年で市民への説明や関係機関との調整、下水道法などの法手続を行う。また、広裕公園調整池の水質は生活排水の影響もあることから、調整池の上流区域で現在浄化槽などを使用している世帯が約240世帯ある。今後も浄化槽を適正に管理してもらうようPRの充実を図る。

質問 昨年の浚渫費用と土砂等の重量は。また、今後の取り組みは。
(答弁) 下水道部長 浚渫費用は約450万。搬出した土量は、約80トン。2012年度から約5力年の予定で調整池に堆積している土砂、ヘドロの浚渫を行う。浚渫予算は約2,800万計上。土砂量は約4600トンの見込み。

提案 子ども達への環境問題として、台所は海や川の入り口である。水を大切に、合成洗剤の及ぼす河川環境への影響等を伝え、子ども達に呼びかけ、発信することが重要。「自分たちの川を守ろう」となるような啓発活動を！

質問 調整池の活用についての考えは。
(答弁) 下水道部長 地元の強い要望と調整池の周辺住民の方々の合意がある場合に、調整池の機能確保と利用者の安全確保を最優先に考えた管理方法が整理できていることが前提である。

○病後児保育施設の更なる充実を
質問 保育園の増園に比例し、病児・病後児保育施設の需要は今以上に高まる。町田地区、南地区、駅周辺も検討を。
(答弁) 子ども生活部長 保育園の新設や既存の園を建て替える際にセットで考えていく。町田地区は、今後も認可保育所が必要なおもである。20年間期間限定認可保育所の公募に際し、あるいは既存園の建替えといった具体的な建設計画を検討する際に設置者に働きかけていく。

質問 病児・病後児保育の運営で施設ごとに利用のばらつきが生じている。原因はなにか。また、施設の稼働率を上げるための取り組みが必要。市の考えは。
(答弁) 子ども生活部長 流行の感染症が地域的に異なり、施設ごとのばらつきは

余り問題ない。病後児保育施設は病気の回復期であっても預けなければならぬ保護者の方々のセーフティネットである。万が一に備えてあらかじめ登録するよう、病児・病後児保育の事業のPRに努める事が重要。

質問 病後児保育施設を利用するには、事前利用登録が必要。この登録の仕方を1力所に書類を提出すれば、4力所の施設すべてを利用できるシステムへ変更しては。
(答弁) 子ども生活部長 保護者の立場から見れば、1力所で登録ができれば非常に便利である。一方、預かる施設側からすると、課題がある。市では、病児病後児保育事業連絡会を事業者と一緒に開催している。その中でメリット、デメリットを確認し、この登録制度や制度そのものの改善について研究する。

提案 このようなシステムを導入すれば施設利用のばらつきは解消、病後児保育施設の稼働率も上がるのではないかと。パソコンや携帯でのネット予約も可能になるだろう。研究、調査を強く求める。

質問 病後児保育施設の定員枠は4人。繁忙期だけでも、枠を6人にするという柔軟な対応はできないのか。
(答弁) 子ども生活部長 保育スペースや職員配置に基準があり、中々難しい。連絡会の中でも研究していく。

○認知症の方の徘徊対策の向上を
質問 徘徊対策について市の取り組みは。
(答弁) いいき健康部長 ご家族等から警察署に捜索届が提出された事を確認後、高齢者支援センターや捜査協力の協定を締結しているタクシー会社、新聞販売店へ情報提供を行い捜索の協力を依頼。また、防災行政無線の放送を活用し市民の皆様にも協力を依頼。高齢者安心キーホルダー、GPS機能、端末機の貸し出しにより、徘徊高齢者探索サービスを実施。新たな情報提供先を今後検討していく。

平成24年12月定例会

○鶴川駅周辺の更なる整備充実を

質問 鶴川駅東口交差点の渋滞問題、鶴川駅前広場の今後の整備は。
(答弁) 副市長 鶴川駅東口交差点から都県境までの世田谷町田線は、2015年度までに優先的に整備する路線に位置づけられ今後、交差点すいすいプランの完了時期などを勘案して事業着手する。川崎市は、都県境から上麻生交差点を含んで柿生方面への世田谷町田線が今年度から事業着手されており今年度は測量を行い、都市計画道路の事業認可を取得する予定。2013年度から用地買収に着手する予定。駅前広場の整備については、鶴川駅周辺の街づくりの課題である。

質問 鶴川駅東口交差点に、ループ状の横断歩道橋又は、地下道を設置する等を将来的に考えてはどうか。
(答弁) 建設部長 東京都に実行の可能性を含めて確認するが、設置スペース、バリアフリーの観点から実現性は低い。

提案 市が現在の小田急電鉄所有の駐車場の一部を購入し1階をバスロータリー、2階を駅前広場へ。また、小田急線の駅舎を橋上化し東側と、南側双方へ市民がアクセスし易くなるように。鶴川駅の南側の街づくりを一方で進め、また、駅前広場の整備を進めていく中で、横断歩道橋、地下道、スクランブル交差点等も視野に入れ今後の整備方針を考える必要がある。東京都、川崎市と小田急電鉄には積極的な働き掛けを。

質問 ホプリホール鶴川の南にある小田急線の踏切から鶴見川の大正橋へ抜ける約1000mの区間で道路拡幅の計画が進められている。今後の進め方は。
(答弁) 鶴川203号線の事業手法は、生活道路拡幅整備事業を用い、用地は沿道地権者の方から寄附をいただく。今後は、用地寄附承諾書が取りまとめられた段階で市に提出してもらい、その後、測量用地の寄附と物件補償、工事という手順となる。

質問 鶴川203号線の道路を拡幅整備すると同時に、下水道の整備も一緒に実施できないか。下水道の整備方法は、小田急線の下を渡る方法の他にないか。
(答弁) 下水道部長 小田急線の下を渡る方法は例外的な方法。この鶴川203号線の下水道計画は、鶴川駅前土地区画整理事業区域内を通過するという計画。下流となる鶴川駅前区画整理事業区域と

併せて一体で下水道を考えた。仮に流下方向を東側区域でなく、小田急線の踏切の方に横断をして北側区域に流す場合は、踏切横断工事には鉄道事業者、小田急電鉄さん等との調整協議が必要となる。

質問 緊急車両の通行が可能となるよう、踏切付近の道路拡幅を。
(答弁) 建設部長 街づくりビジョンで勘案した中で検討する。

質問 鶴川駅の南側における街づくりの進捗状況は。また、今後の取り組みは。
(答弁) 都市整備担当部長 緊急車両等の通行が可能となる道路幅員の確保、衛生環境の向上のために公共下水道の整備等が課題。更に、駅南側にも交通広場を整備し、土地の有効活用を促すという意見もある。市は、居住環境の向上や副次核としてふさわしい駅前としての利便性の向上に向け、事業手法の検討等、なるべく早く、丁寧な街づくりを進めていく。

提案 三輪緑山、三輪方面から鶴川駅南口へのバス等の車両の流入、鶴川駅と青葉台を結ぶバス路線整備等、三輪地域住民の方達の交通の利便性もしっかりと視野に入れて進めるように。

○シティ・プロモーションの活性化に
質問 「仮称」ふるさと町田大使」の設置を。
(答弁) 広報担当部長 「仮称」ふるさと町田大使」などの魅力ある活動も視野に入れ、町田市に合った広報手法を研究する。

質問 高知泉庁のよこ「おもてなし課」を設置しては。
(答弁) 広報担当部長 町田市と観光コンベンション協会による市内の観光の案内、見所の紹介、各種イベントの実施等を通じて、来街者をお迎えしている。更に、市内でも、職場の風土づくりと市民サービスの向上を図るため、各課で「おもてなし宣言」を設け、日々の業務に当たって例研究を進めていく。

皆様の声を市政に届け更に暮らしやすい町田市をつくりたい。いわせ和子におまかせください!!



鶴川203号線道路拡幅の説明会

質問事項を要約して報告させていただきました。詳しくはHPをご覧ください。